

第3学年社会科学学習指導案

指導者 小林 淳真

1 単元名 『消費税UPは是か否か』

2 単元観

この単元は新学習指導要領の公民的分野，大項目（2）わたしたちの経済「イ国民の生活と政府の役割」に基づいて設定した単元である。新学習指導要領では，この単元について次のように述べている。

- ・「社会資本の整備」については，社会資本が多く経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として，間接的に経済の発展に役立つことについて理解させるとともに，我が国の社会資本の現状及び社会の変化を踏まえ，福祉の向上を図る上で生活に関連した社会資本の充実が必要であることを気付かせる。
- ・「社会保障の充実」については，日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解させ，その一層の充実を図っていく必要があることを理解させるとともに，少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえながら，これからの福祉社会の目指すべき方向について考えさせる。
- ・「国や地方公共団体が果たしている役割」については，社会資本の整備，公害の防止など環境の保全，社会保障の充実，消費者の保護など国や地方公共団体に任せ方が効率的であったり，公正であったり，市場の働きだけに任せたままでは解決が難しかったりする問題について具体的に考えさせる。
- ・「財源の確保と配分という観点から財政の役割」については，財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ，財政が国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを踏まえながら，財政支出に対する要望は広範多岐にわたり，そのための財源の確保が必要であるが，国や地方公共団体の財源は無限にあるわけではないことに気付かせ，これらの学習の上に立って，財源の配分について，効率や公正の考え方に基づいて考えさせる。
- ・「租税の意義と役割」については，統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴にも触れ，国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の在り方について考えさせることを意味している。また，「国民の納税の義務」については，国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに，税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養う。

また，新学習指導要領は『改善の具体的事項』『中学校社会科改訂の趣旨』の中で，公民的分野については，現代社会の理解を一層深めさせるとともに，よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成するため，文化の役割を理解させる学習，ルールや通貨の役割などを通して，政治，経済についての見方や考え方の基礎を一層養う学習，納税者としての自覚を養うとともに，持続可能な社会という視点から環境問題や少子高齢社会における社会保障と財政の問題などについて考えさせる学習を重視して内容を構成する。その際，習得した概念を活用して諸事象の意義を解釈させたり事象間の関連を説明させること，自分の考えを論述させたり，議論などを通してお互いの考えを深めさせたりすることを重視する，と述べている。

そこで，本単元では，新学習指導要領の「社会資本の整備」「社会保障の充実」「国や地方公共団体が果たしている役割」「財源の確保と配分という観点から財政の役割」「租税の意義と役割」についての基本的な知識を，単元の冒頭部分で説明し，理解させていきたいと考えている。その後，この既習の知識を活用して『消費税UPは是か否か』を考えるパネルディスカッションをおこなうことで，これまで学習してきた知識を関連して考えるとともに，これからの日本の国のあり方について，自分自身の考え方を深めさせていきたいと考えている。

3 生徒の実態

本校の生徒の実態を考えると、非常に豊富な知識を持っている生徒が多い反面、多くの知識を結びつけて考えることができない生徒も多かった。しかし、研究を進めるにつれて、徐々にではあるが、さまざまな事象を関連づけて考えることができる生徒が増えてきた。このことは、歴史的分野の年表づくりを行う際、一つ一つの歴史的事象を個別のものとしてではなく、原因と結果を考えて作成している生徒が増えていることや、地理的分野の世界の国々の調べ学習において、レポートを作成する際、視点同士を関連づけて説明している生徒が増えている点に現れている。

また、同時に、その関連づけて構成した知識から、自分なりの判断や考えをもつ生徒も増えてきた。このことは、授業ノートの作成の際、毎日の授業の感想を書かせているのだが、授業で学んだことに対して自分なりの考えを述べている生徒が多くなっていることに表れている。一方で自分自身の判断や考えを他人にどう伝えたら良いのか、その方法が見いだせず、苦手にしている生徒が多かった。

そこで本研究では、これまでの前研究で作上げた『かかわり』の成果を意識していくことで、生徒が獲得した生きて働く知識（学習活動や社会で問題に出会ったときに生かすことができ、他の事象や事例に応用・転移できる知識～事象間の関連を自ら見出し、そこから社会を見つめなおすことが可能な知識～）を、歴史新聞・年表・ポートフォリオの作成や、パネルディスカッション・グループ討論・学級討論などの、さまざまな表現活動を通して、より深め、自分のものにできるよう工夫していきたい。

4 全体研究とのかかわり

全体研究のテーマは「知の再構成をめざして」－「かかわり」を生かした学習過程の工夫－である。これまでの8年間、「かかわり」というキーワードの下、社会科においても授業実践を積み重ねながら、研究を行ってきた。

これまでの研究において本校社会科では『かかわり』とは、学習内容の関連性や単元内・単元間における関連性はもちろん、他分野間（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）の関連性などを吟味・検討することを通して、自分なりの社会認識を構築していくことをいう。つまり、「事象と事象との関連性から、社会の営みを読み解いたり、自分たちの社会を見つめなおす」ことであると定義してきた。

社会科では、「社会認識を高める授業の創造」をテーマに、サブテーマとして「社会的事象から見いだした『かかわり』を表現する活動を通して」を設定した。社会科総論でも触れられているとおり、生徒に思考力・判断力はついてきているものの、習得した学習内容を他者に伝えることを苦手にしている生徒もまだ見られるのが現状である。また表現する活動に取り組みせていくことは、表現力のみならず、思考力・判断力も同時に高めていくことにつながっていくと考えている。

また、全体研究で取り組んでいる新学習指導要領の改訂にあたっての取り組みとして、言語活動の充実を図るため、本校社会科では表現する学習を多く仕組んできた。言語活動の充実について、公民的分野では、習得した知識、概念や技能を活用して社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して働化を深めたりすることをすると、新学習指導要領で述べられている。本単元でも、そのことを踏まえ、パネルディスカッションを通して議論し、互いに自分の意見を深めさせたいと考えている。

最後に、この「かかわり」をより具体化させるため、本校では社会科の学習として必要な「学ぶ力」とは何かについての研究も行ってきた。その本校社会科でまとめた、公民的分野の「学ぶ力」は次の通りである。

〔公民的分野〕

- 他地域や過去の社会との関係、および個々人の生活との基本的関係から、現代社会の成り立ちを巨視的にとらえるための「学ぶ力」
 - ア 現代日本社会を地理的世界のなかに位置づけてとらえることができる。
 - イ 現代日本社会を歴史的世界のなかに位置づけてとらえることができる。
 - ウ 人々の生活を社会との相互的な関係のなかに位置づけてとらえることができる。
- さまざまな事象を結びつけて、社会の各領域の営みを読み解くための「学ぶ力」
 - エ 経済事象を結びつけて現代社会の仕組みを見定めることができる。
 - オ 政治事象を結びつけて現代社会の仕組みを見定めることができる。
 - カ さまざまな経済事象や政治事象を結びつけて現代社会や社会生活の構成を読み解くことができる。
- 現代社会の課題を見いだすとともに、自他の判断を吟味・検討するための「学ぶ力」
 - キ 現代社会の今後を予測することができる。
 - ク 現代社会の課題を見いだすことができる。
 - ケ 現代社会の課題をめぐる多様な判断を吟味・検討することができる。

本単元で特に身につけさせたい「学ぶ力」は上のウ、エ、カ、ク、ケの項目の「学ぶ力」であり、その力をつけることによって、現代日本の課題を見だし、自分や他人の考えを通して、その課題を再構成する力を身につけさせていきたい。

5 単元の目標

- ・現代社会の特色を考え、税負担者として、意欲的に財政問題について考えることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・日本の財政問題について、さまざまな事象を関連づけて、自分なりの考えを表すことができる。
(思考・判断・表現)
- ・日本の財政問題について、自分なりの考えを構成するために、さまざまな資料を活用することができる。(資料活用の技能)
- ・社会資本の整備、社会保障の充実や租税の仕組みなど、政府の財政活動について理解することができる。(知識・理解)

6 単元指導計画と評価計画

全7時間

時数	題材名	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1	なぜ、税金を払うの？		我が国の社会資本の現状及び社会の変化を踏まえ、福祉の向上を図る上で生活に関連した社会資本の充実が必要であることに気付くことができる。		租税の大まかな仕組みやその特徴を理解し、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解することができる。

1	税の公平性って？	税の負担者として租税の使いみちなどについて、理解と関心を深めることが出来る。			社会資本の整備、社会保障の充実、など国や地方公共団体に任せた方が効率的であり、公正であるため、市場の働きだけに任せたままでは解決が難しいことを理解することが出来る。
2	日本の財政課題？	少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえながら、これからの福祉社会の目指すべき方向について考えることが出来る。	財政支出に対する要望は広範多岐にわたり、そのための財源の確保が必要であるが、国や地方公共団体の財源は無限にあるわけではないことに気付くことが出来る。		日本国憲法第 25 条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解することが出来る。
2	消費税UPは是か否か (part 1) 「自分の意見を作ろう」		これまで学習してきたことを関連づけて考え、日本の財政問題について、いくつかの意見を参考に、自分なりの考えを持つことが出来る。	さまざまな資料に基づき、日本の財政問題について、自分なりの考えを持つことが出来たか。	
1 (本時)	消費税UPは是か否か (part 2) 「他人の意見に触れよう」		パネルディスカッションを通し、自分とは異なる考え方、自分と同じ考え方にそれぞれ触れることにより、自分の考えをより深めることが出来る。		

7 単元で身につけさせたい「学ぶ力」と4観点の結びつき

単元で身につけさせたい「学ぶ力」の項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ウ 人々の生活を社会との相互的な関係のなかに位置づけてとらえることができる。	○			◎
エ 経済事象を結びつけて現代社会の仕組みを見定めることができる。			◎	○
カ さまざまな経済事象や政治事象を結びつけて現代社会や社会生活の構成を読み解くことができる。	○	◎		
ク 現代社会の課題を見いだすことができる。	○	◎		
ケ 現代社会の課題をめぐる多様な判断を吟味・検討することができる。		◎	○	

◎特に結びつきが強い「学ぶ力」

○結びつきが強い「学ぶ力」

8 本時の授業

(1) 題材名 消費税UPは是か否か (part 2)

(2) 日時 平成22年10月23日 (土)

(3) 場所 第1コンピュータ室

(4) 本時の目標

- ・自分なりの考えを再構成するために、積極的に他者の考えを理解しようとする事が出来たか。(関心・意欲・態度)
- ・日本の財政問題について、自分なりの考えを再構成するために、様々な意見を吟味・検討することが出来たか。(思考・判断・表現)

(5) 題材観

これまで本単元では、社会資本の整備や社会保障の充実の必要性、日本の国債残高の増加など、さまざまな問題を関連づけて、自分なりの考えを構築してきた。本時は、「財政課題の解決方法は」についてのパネルディスカッションを通して、自分の考えを再構成させる場面である。この問題に関して、さまざまな考えの違いに触れ、その根拠を一つ一つ吟味・検討することによって、自身の考えの深まりや変化を期待したい。

(6) 題材の授業展開

	学習内容	指導上の留意点
導 入	<p>1. 財政の問題点を振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・不況による所得税、法人税の落ち込み ・歳入の国債依存 ・社会保障費の年1兆円の自然増加 </div>	<p>現代社会の財政における問題点を、歳入と歳出の問題点から振り返る。</p>

